

VOICE MESSAGES

Voice Messages for the Future

Research and Development Group, Hitachi, Ltd

FOR THE FUTURE



CONCEPT

気候変動、自然の喪失、長引く戦争、経済混乱、デジタル不安、政治的分断――。私たちは複雑な危機のただなかに生きることを余儀なくされています。

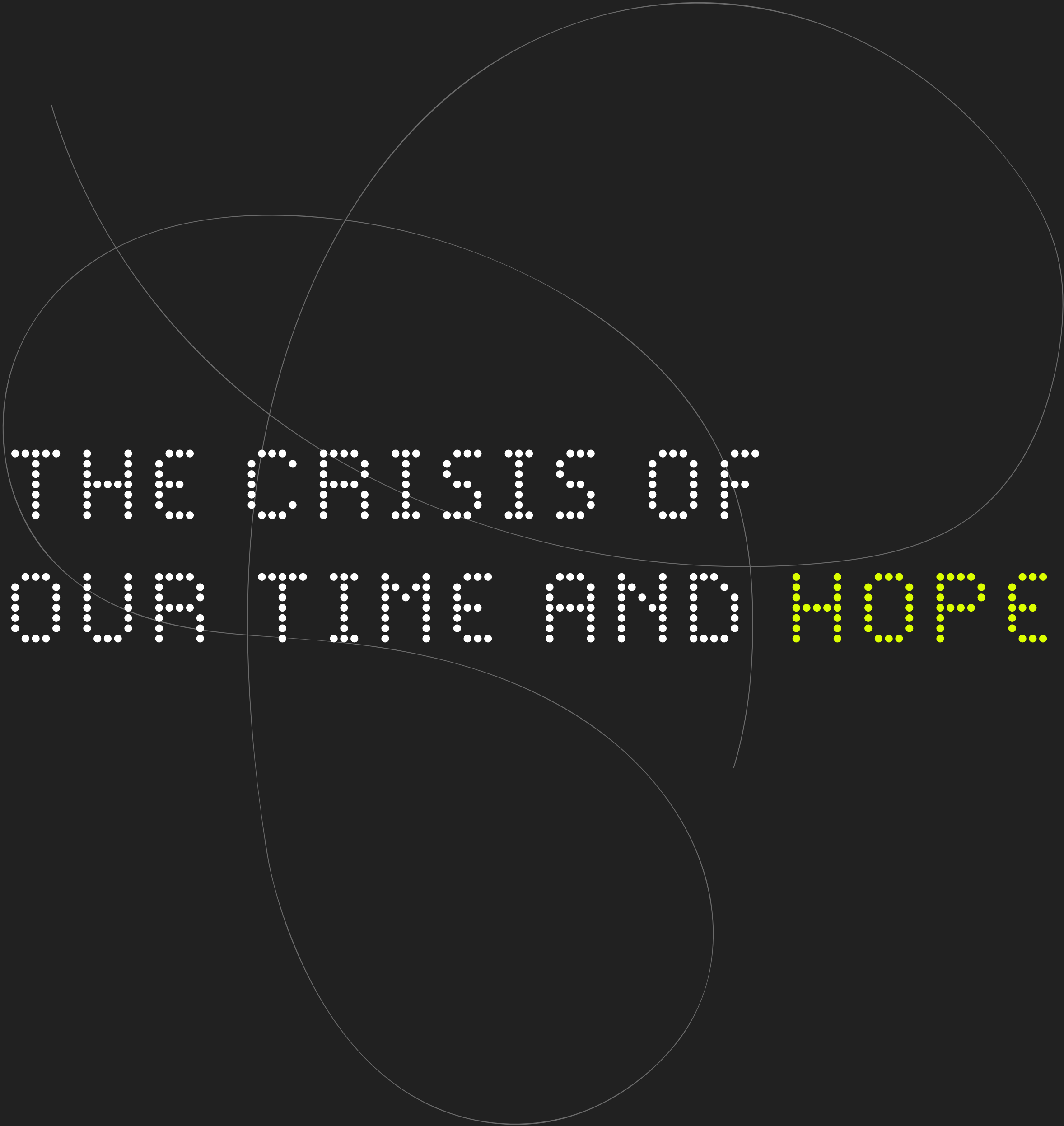
マクロな地政学や環境の変化は、それと緊密に結びついた私たちのミクロな生活に暗い影を落としています。一方、私たちのミクロな意思決定もまた、少しずつ未来の地球と世界に影響を与えます。

では、遠い将来の人々が私たちの世代の人々を振り返ったとき、どうすれば私たちは「よき祖先」として思い出されることができるのでしょうか。現代の世界において、これから生まれてくる人々の安全で公正な生存をどのように守ることができるのでしょうか。私たちは何を手がかりに、現在と未来の世代のための行動を続けることができるのでしょうか。

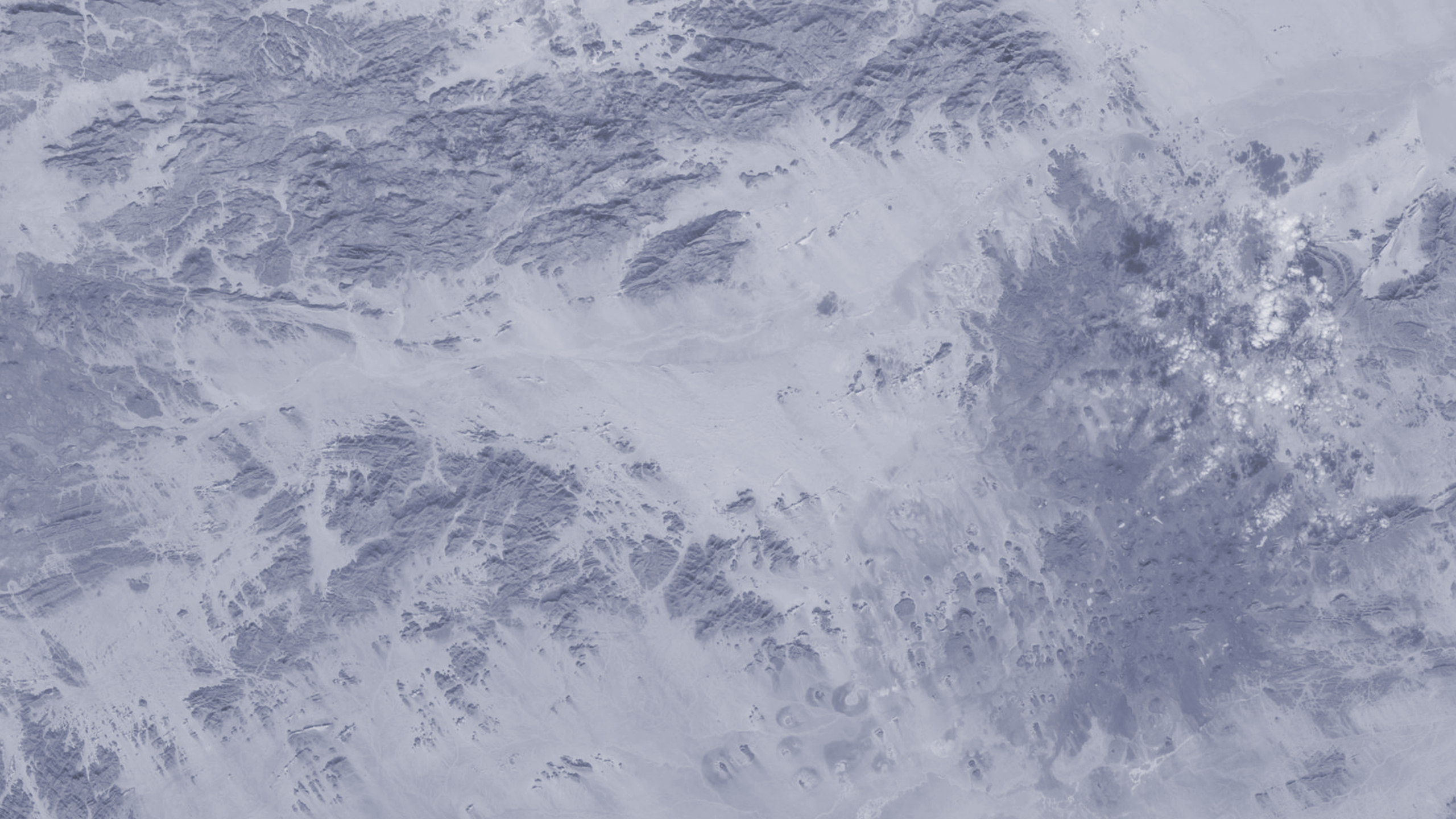
このプロジェクトは、現在の地球の危機に関わるこれらの重要な問いについての深い思索をうながすことで、あなたが未来との新たな関係を築くことを目的としています。

3つのヴァーチャルな「ミニ・ディスク」（MD）には、自己と未来との関わりについて考えるための心の余白を生み出すための音楽が記録されています。そして、社会哲学者、国際連合の指導者、そして気候運動家が残した、未来にかかわるヴォイス・メッセージを聞くことができます。

これらのディスクに込められた音楽や声を聴き終えるころには、あなたの中に未来に関する新しい感覚＝「希望」が生まれているかもしれません。



THE CRISIS OF OUR TIME AND HOPE



POLYCRISIS

気候変動、自然の喪失、戦争、経済混乱、偽情報の爆発、政治的分断——。私たちの時代は、複合危機と呼ばれる多元的なリスクの暗い影に覆われています。

その複雑な影響は、地球上の生命を脅かし、私たち人間が身体的、精神的、社会的な健康を実現することを困難にしています。

日々、私たちのもとに届くニュースは、私たち人間がこれらの危機に対処できていないだけでなく、その解決を遅らせ、きわめて危険な水準まで悪化させようとしていることを示しています。

THE PLANETARY BOUNDARIES

差し迫った緊急事態のニュースに隠れて、地球環境の崩壊はゆっくりと、しかし確実に私たちの生存の土台を崩してしまおうとしています。

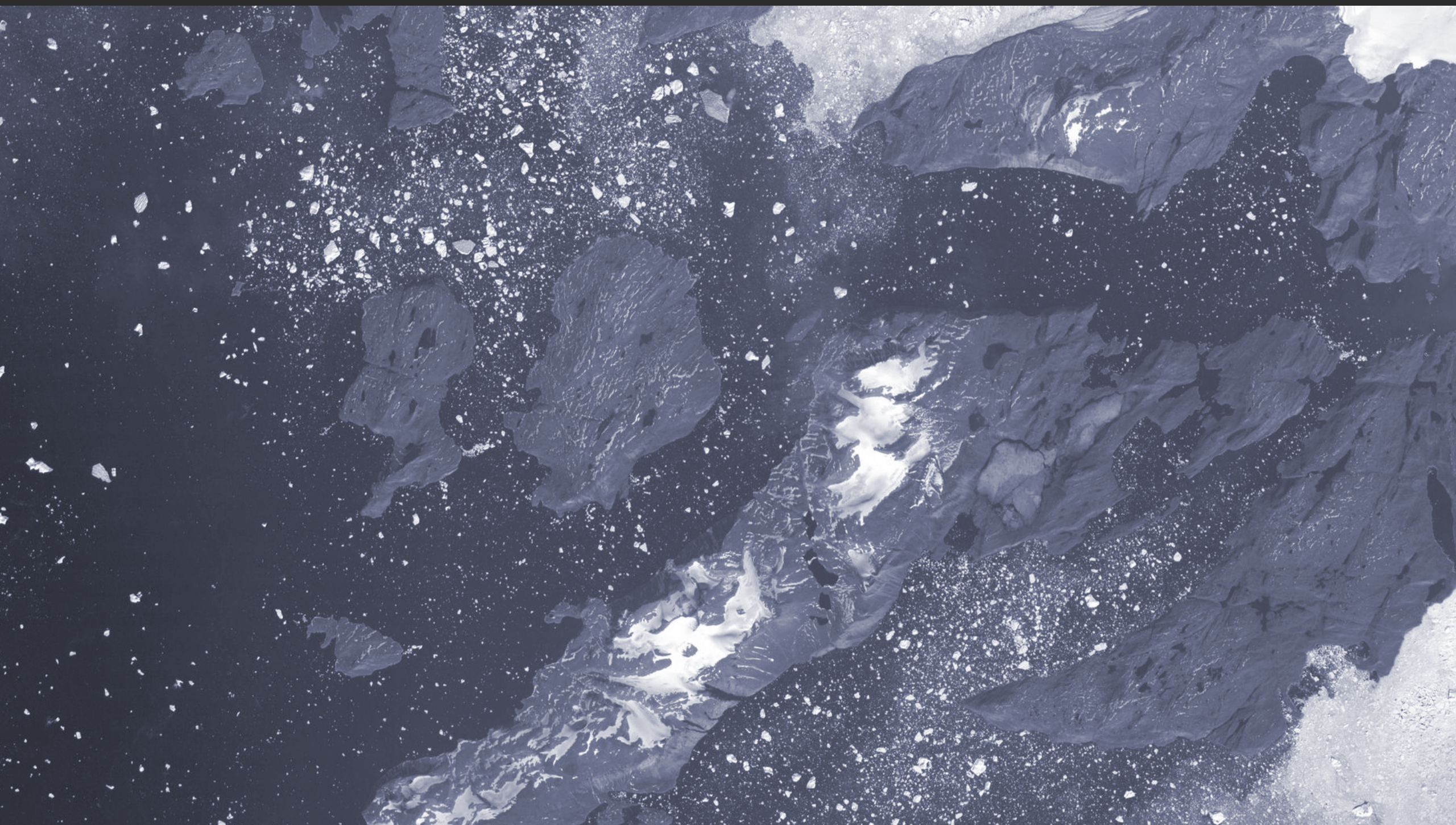
「プラネタリー・バウンダリーズ」の研究者たちは、人間の安全な生存を維持するために守るべき地球環境の限界を示しています。彼らの最新の研究によれば、地球は、ティッピング・ポイントと呼ばれる、惑星のバランスの根本的で急激な変化の入り口に向かって突き進んでいるとい

います¹。

私たちは人間活動の環境への重大な影響とその解決策について十分に理解しています。にもか

かわらず、未来の世代の人々を苦しめる選択を続けているのです。

¹ Planetary Boundaries Science, ed. 2024. Planetary Health Check: A Scientific Assessment of the State of the Planet, p. 24.



BECOMING THE GOOD ANCESTOR

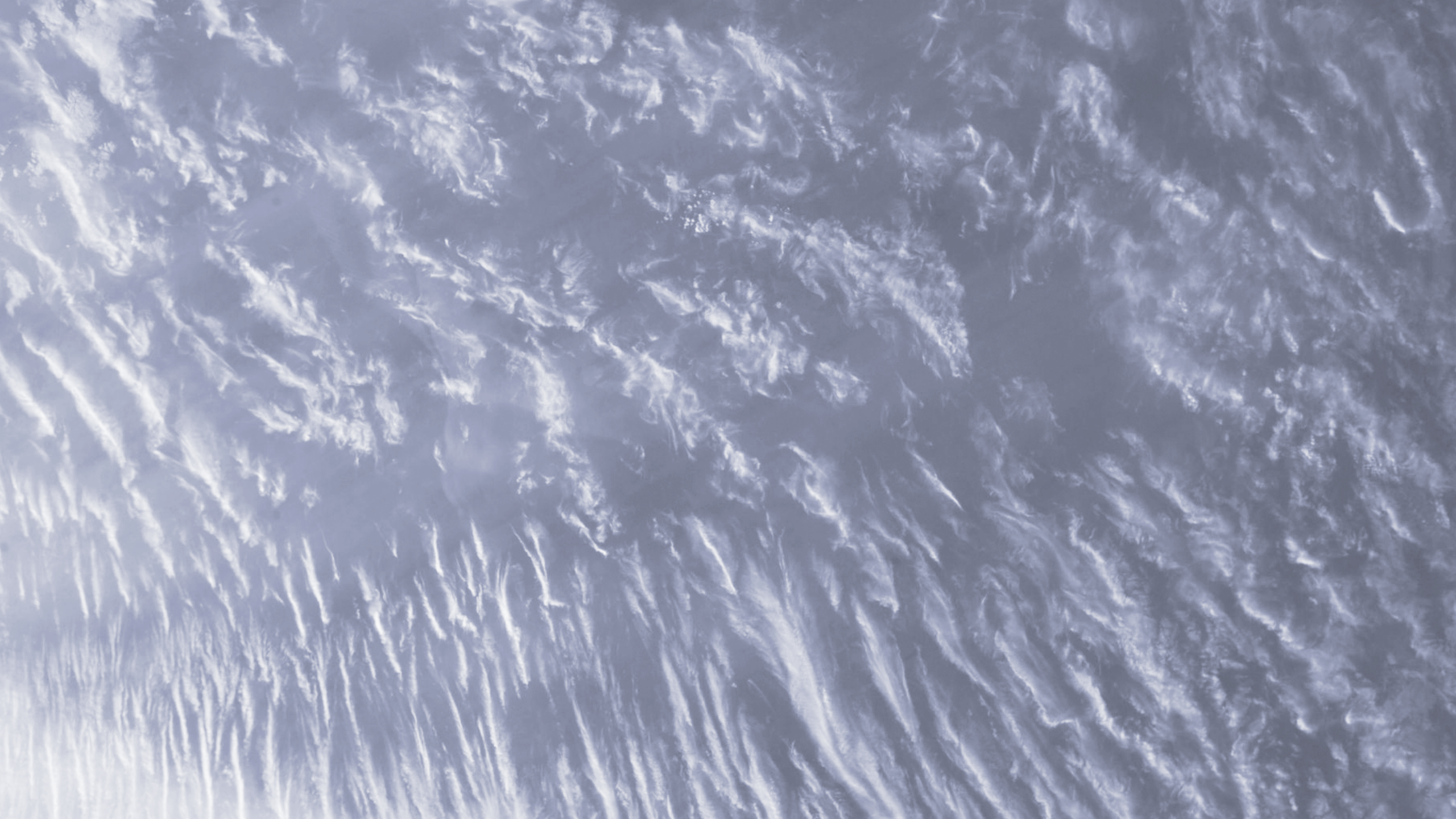
オックスフォード大学の社会哲学者のローマン・クルズナリック（Roman Kurznic）博士は、このような私たちの破滅的な行動パターンが、私たちの時代の極端な近視眼的傾向によるものと指摘します²。

私たちは、「現在」という短いスパンの視野にとらわれ、「未来」を、あたかもはるかに遠くにある植民地のように扱い、自らの問題をそこに生きる人々たちに押しつけ続けています。

人間には、すぐに手に入る小さな報酬を将来に得られるより大きな報酬よりも優先してしまう傾向があります。未来に関する想像力を、より長期的な思考へと広げる必要があります。

私たちは将来世代の人々にとって「よき祖先」（Good Ancestors）になれるだろうかと問い、その答えにもとづいて緊急の行動を起こすことが求められているのです。

² Krznaric, Roman. 2020. The Good Ancestor: How to Think Long Term in a Short-Term World. WH Allen.



FACT FOR THE FUTURE

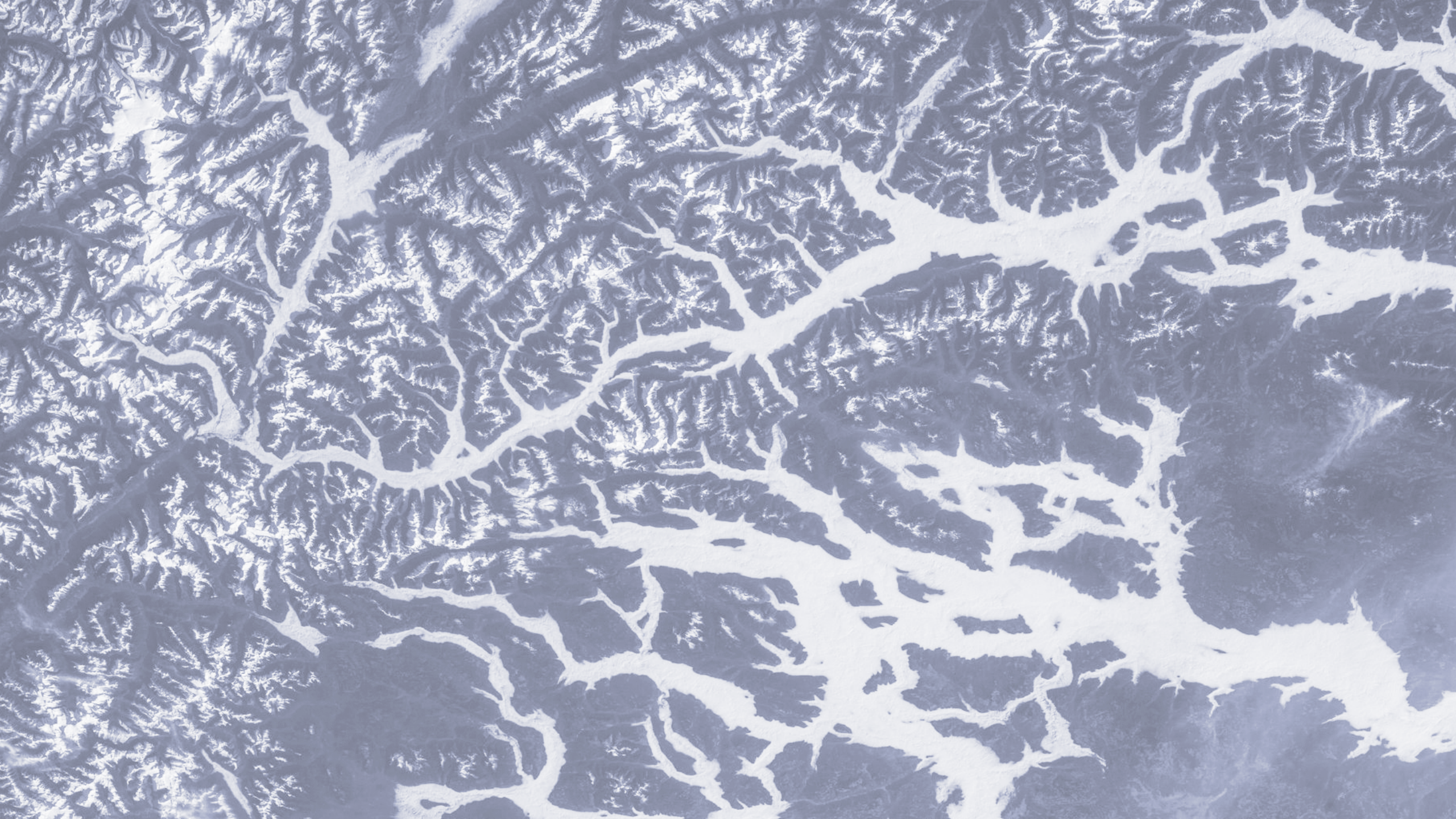
2024 年 9 月、ニューヨークの国連本部では「未来サミット」が開催され、「未来の協定」が採択されました³。

平和と安全、持続可能な開発、気候変動、デジタル協力などの課題とともに、この協定は、若者が国連の機関やプロセスをはじめとするグローバルな意思決定に参加するための取り組みの方針を示しています。

協定には、グローバルなデジタル公共財や AI ガバナンスなどに関する「グローバル・デジタル・コンパクト」とともに、「将来世代に関する宣言」が含まれています。この宣言は、現在世代が将来世代への影響の体系的な考慮するとともに、将来世代が直面しうる予見不可能なリスクを回避し、その利益を守るための原則や具体的な取り組みなどを示しています。

これは、国連の意思決定において、長期的な思考や将来世代のニーズや利益を考慮に入れるための歴史上初めての合意です。

³United Nations. “The Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations.”



HOPE AS A COMMITMENT TO THE FUTURE

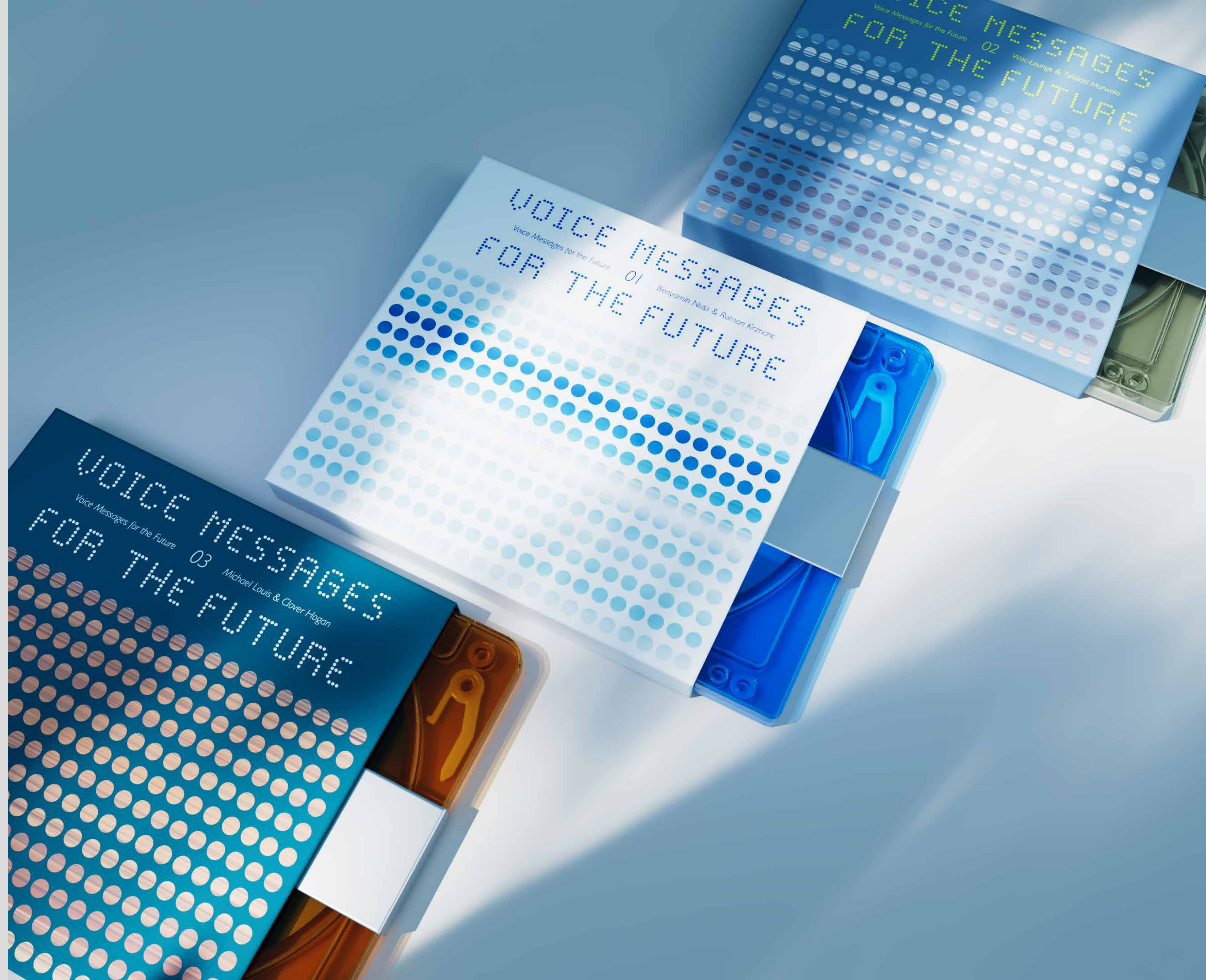
緊急事態（emergency）という言葉には、「現れ出る」（emerge）というもう一つの意味が含まれていると、アメリカの作家レベッカ・ソルニット（Rebecca Solnit）は、20 世紀初頭に出版した書物『暗闇の中の希望』の中で述べています。彼女は、危機においてこそ、変革を生じさせる可能性があることを訴えています⁴。

「希望とは、私たちの行いが意味を持つという信念である——たとえそれが、どのように、いつ意味を持つのか、誰や何に影響を及ぼすのかを、事前に知ることはできなくとも。そして、後になってさえ、それを知ることは叶わないかもしれない。それでも、それはたしかに意味を持つのだ」。

「希望とは、未来へと身をささげることである。そしてその未来への誓約こそが、いまを生きるに値するものへと変えるのだ」。

⁴ Solnit, Rebecca. 2016 (2004). Hope in the Dark: Untold Histories, Wild Possibilities. Haymarket Books.

VOICE
MESSAGES
FOR
THE FUTURE:
3 MINI DISCS



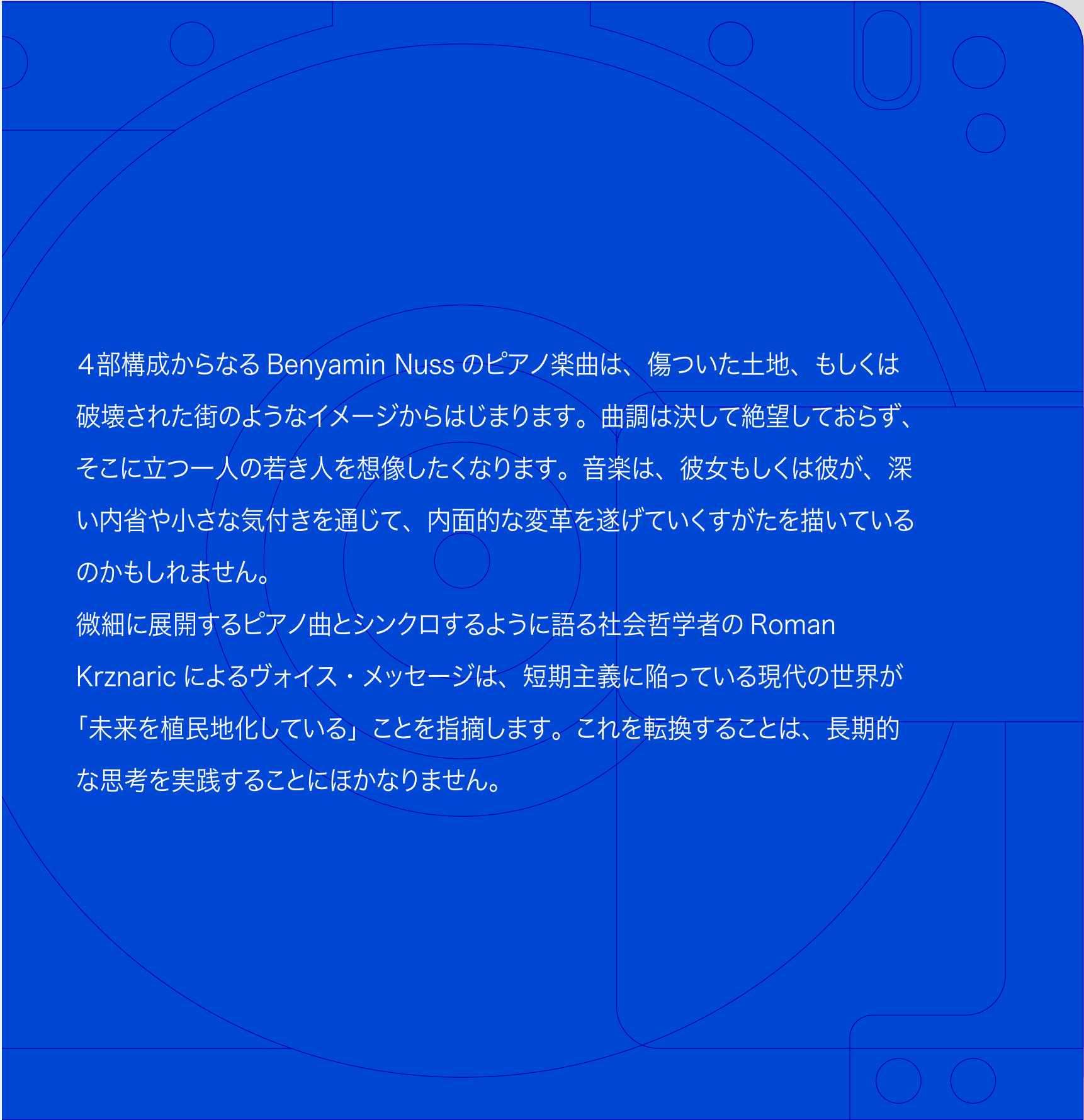
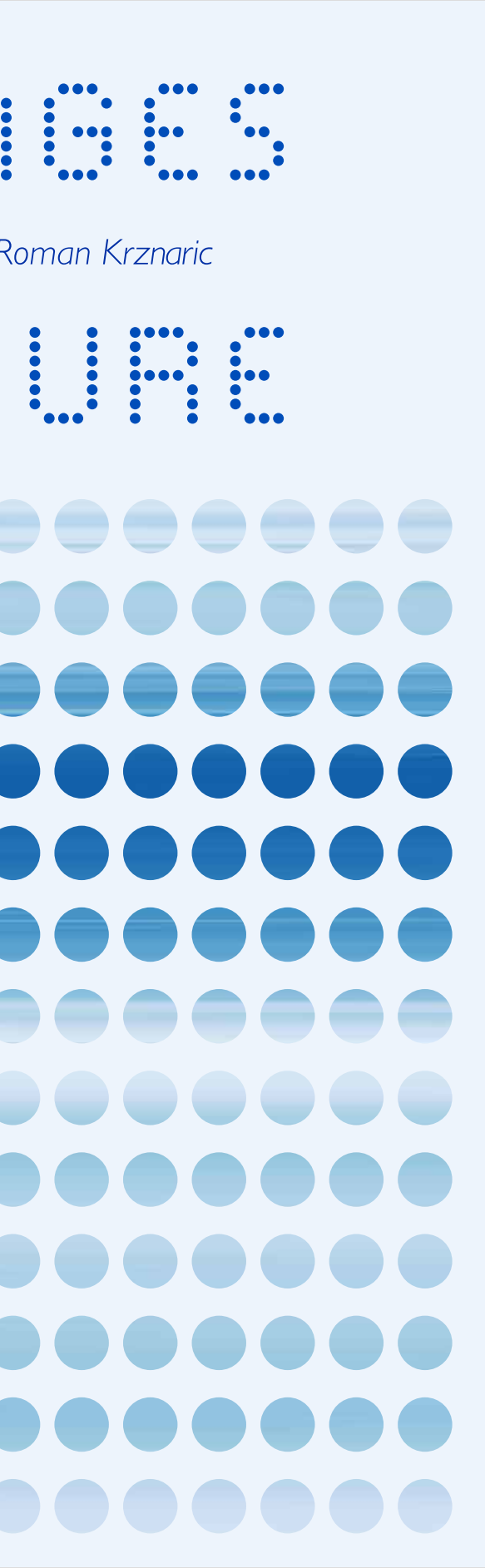
DISC 01

Benyamin Nuss
& Roman Krznaric

- I-1 Ruins (05:12)
- I-2 Another dawn (06:01)
with the voice message by Roman Krznaric
- I-3 Transformation (04:19)
- I-4 Walk on (05:20)

再生はこちら ▶





4部構成からなる Benjamin Nuss のピアノ楽曲は、傷ついた土地、もしくは破壊された街のようなイメージからはじまります。曲調は決して絶望しておらず、そこに立つ一人の若き人を想像したくなります。音楽は、彼女もしくは彼が、深い内省や小さな気付きを通じて、内面的な変革を遂げていくすがたを描いているのかもしれません。

微細に展開するピアノ曲とシンクロするように語る社会哲学者の Roman Krznaric によるヴォイス・メッセージは、短期主義に陥っている現代の世界が「未来を植民地化している」ことを指摘します。これを転換することは、長期的な思考を実践することにほかなりません。



voice

Roman Krznaric

ローマン・クルズナリックは、変革をもたらすアイデアの力について執筆する社会哲学者である。彼の国際的なベストセラー書籍には、『グッド・アンセスター』『エンパシー』『ワンダーボックス』『カーペ・ディエム・リゲインド』などがあり、25以上の言語で出版されている。オックスフォード大学の「エウダイモニアと繁栄センター」の上級研究員であり、世界初の「エンパシー博物館」の創設者でもある。最新作『History for Tomorrow: Inspiration from the Past for the Future of Humanity』は2024年7月に出版された。ロマンは、ローマクラブのメンバーであり、ロングナウ財団の研究員でもある。



music

Benjamin Nuss

ドイツ生まれ。ピアニストと作曲家としての幅広い技能を通じて、ロンドン交響楽団や東京フィルハーモニー交響楽団などと共演、自らの名前でドイツ・グラモフォンからの二つのソロ・アルバムを含む多数のアルバムを録音。ヨーロッパ各地でクラシック、ジャズ、現代音楽の演奏を続け、その豊かな才能で観客を魅了している。

The Voice Message from Roman Krznaric

My name is Roman Krznaric. I'm a social philosopher and I'm a writer.

What is the nature of our current planetary crisis?

Well, I believe we live in the age of the “Tyranny of the Now,” an era of chronic short-termism where our politicians can barely see beyond the next election or the latest opinion poll, where businesses find it hard to see beyond the quarterly report. Where, as individuals, we're looking at our phones and clicking the “Buy Now” button.

We urgently need to have a more long-term vision to deal with multiple problems. We need to be planning for the next pandemic on the horizon or dealing with inequalities which get passed on from generation to generation or thinking about risks from new technologies like AI and genetic engineering.

But, crucially, we must be thinking long-term about the ecological crisis, about climate change and biodiversity loss and ocean acidification. And all these things are here with us now, but they are getting worse and worse, year on year, decade on decade.

I believe we need to stop colonizing the future, in other words, we need to stop dumping our ecological and technological problems on the generations of tomorrow and start acting with urgency today. We need to become “Good Ancestors,” so we are remembered well by the generations to come.

How can we do it?

We can do it first by developing “Cathedral Thinking” by having a long term vision where we engage in projects which go beyond our own careers or our own lifetimes, like those who built the first cathedrals in mediaeval Europe, who knew they may take years or even decades to be completed. It's cathedral thinking which gave us the Great Wall of China, has allowed us to voyage into space or allowed the creation of the Svalbard Global Seed Vault, collecting millions of seeds in an indestructible rock bunker that's designed to last a thousand years.

The second thing we need is intergenerational justice. We need to fight for the legal rights of current and future generations for a clean and healthy atmosphere. There's an

organization in the United States doing this called Our Children's Trust. We need to have campaigns around the world to give tomorrow's generations legal and constitutional rights.

And the third thing we need is to remember the power of disruptive movements. All through history movements for change have sometimes broken the rules, from those who campaigned against slavery in the 19th century to those who fought for civil rights in the 1960s. Today's ecological movements need to remember they're part of long tradition of successful disruptive movements that have brought about change.

Finally, I would say we always have to act as if change is possible. Those who fought against British colonialism in India knew that their task would be almost impossible, but they acted as if they could create change and they did. So let us always act as if we can transform the world.

私の名前はローマン・クルズナリックです。私は社会哲学者であり、文筆家でもあります。現在の地球規模の危機の本質は何でしょうか？

私は、私たちが「現在という時間の専制」（Tyranny of the Now）の時代に生きていると考えます。これは慢性的な短期主義（short-termism）の時代です。政治家は次の選挙や最新の世論調査を超えて考えることがほとんどできず、企業も四半期ごとの報告を超えた視野をもつことが難しい時代です。私たち個人も携帯電話を見ながら「今すぐ購入」ボタンをクリックし続けています。

私たちはさまざまな問題に対処するために、もっと長期的なビジョンを持つ必要があります。次のパンデミックに備えたり、世代から世代へと引き継がれる不平等に対処したり、AI や遺伝子工学のような新たな技術が引き起こすリスクを考えたりする必要があります。

しかし、何よりも重要なのは、環境危機、すなわち気候変動、生物多様性の喪失、海洋の酸性化について長期的に考えることです。これらの問題は現在すでに生じており、年々、十年ごとに悪化しています。

私は、「未来を植民地化する」のをやめる必要があると考えます。つまり、私たちの環境問題や技術的問題を未来の世代に押し付けるのをやめ、現在において、緊急の行動を開始する必要があるのです。私たちは「よき祖先」（Good Ancestors）になる必要があります。将来の世代によき人々として記憶される必要があるのです。

では、どうすればそれを実現できるでしょうか？

第一に、「大聖堂思考」（Cathedral Thinking）を発展させることです。これは、私たちのキャリアや寿命を超えるプロジェクトに取り組むことを支える長期的なビジョンを持つことです。中世ヨーロッパに最初の大聖堂を建てた人々が持っていた視点です。彼らは、その建設が完成までに何年も、場合によっては何十年もかかることを知っていました。大聖堂思考において、人間は、万里の長城を築き、宇宙への航海を可能にしました。スヴァールバル世界種子貯蔵庫は、数百万の種子を収集し、千年も保管するために設計されたきわめて頑丈な岩の貯蔵施設です。これをつくりだしたのもこうした思考です。

次に必要なのは世代間の正義です。現在および未来の世代のために、清潔で健康な大気の法的権利を求めて戦う必要があります。アメリカにはこれを行っている「Our Children's Trust」という組織があります。世界中で、明日の世代に法的および憲法上の権利を与える運動を行う必要があります。

そして、三つ目に必要なのは、変革的（disruptive）な運動の力を忘れないことです。19 世紀の奴隷制廃止運動から、1960 年代の公民権運動まで、歴史を通じて、変革のための運動はときに為政者の法的支配をうち破ってきました。今日の環境運動は、自分たちがこうした変革的運動の成功の長い伝統の一部であることを忘れてはなりません。

最後に、私はつねに変革が可能であるかのように（as if）行動しなければならないと言いたいです。かつてのインドでイギリスの植民地支配に対抗した人々は、自分たちの目標の達成がほぼ不可能であることを知っていましたが、変革を起こせるかのように行動し、実際に変革を成し遂げました。ですから、私たちも、つねに世界を変えられるかのように行動していこうではありませんか。

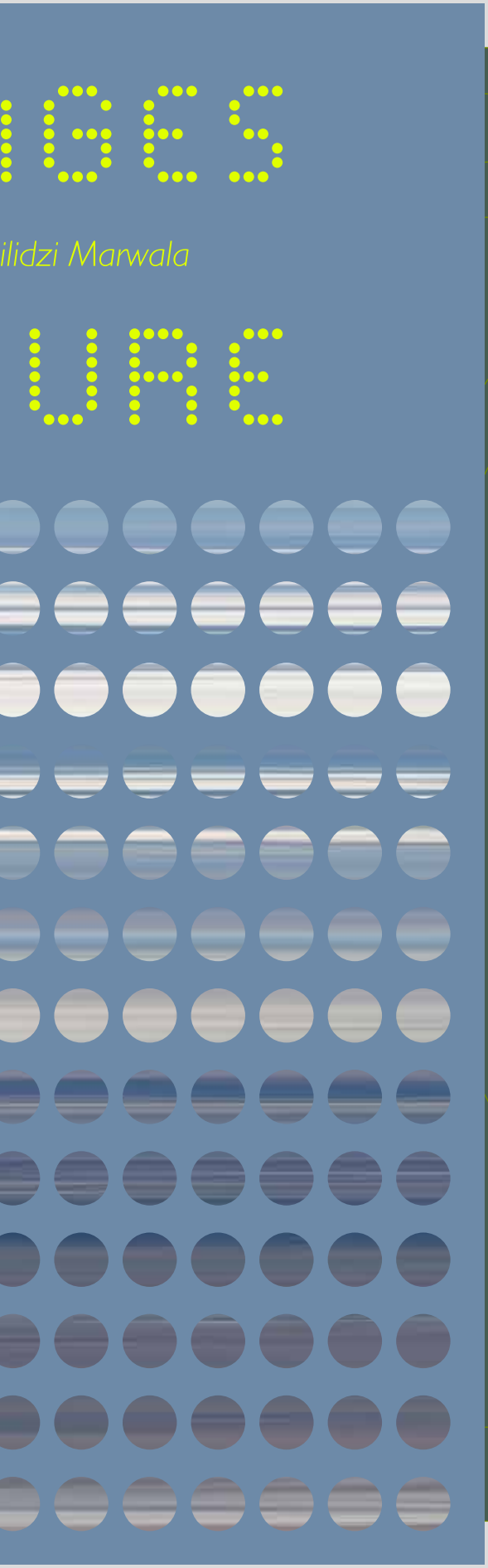
DISC 02

Wac-Lounge
& Tshilidzi Marwala

- 2-1 The Woods, His Voice (07:33)
- 2-2 Banksia Rose (07:33)
with the voice message by Tshilidzi Marwala
- 2-3 Sunken Blue (04:20)
- 2-4 Hollow Wheel (05:52)

再生はこちら ▶





Wac-Lounge は、風が葉を揺らし、鳥の声が響く森の中に立ち、その音と対話するように、少しずつモジュラー・シンセサイザーを鳴らしていきます。それぞれの楽曲に表れている自然との調和の感覚は、人間と自然のあいだを優しく結びつけるもう一つの技術のあり方を感じさせます。

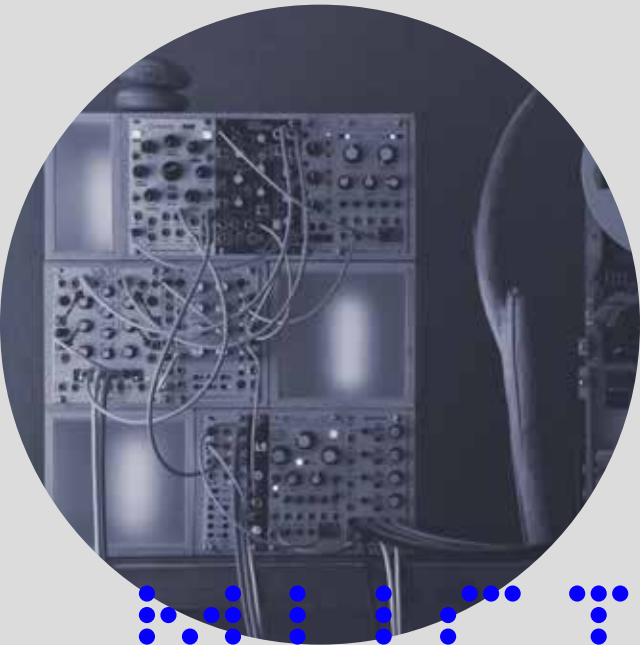
シンセサイザーが生み出す穏やかな木漏れ日のような音像の中で聞こえる国際連合大学の Tshilidzi Marwala 学長のヴォイス・メッセージは、「未来のための協定」や「将来世代に関する宣言」に言及しながら、若者たちが持続可能な成長のための挑戦の道を切り開いていくことを力強く呼びかけています。



VOICE

Tshilidzi Marwala

チリツィ・マルワラ教授は、国際連合大学の学長であり、国際連合事務次長である。2023 年に国連大学の学長に就任する前は、2018 年から 2023 年まで南アフリカのヨハネスブルグ大学の副学長兼校長を務めていた。マルワラ教授は、国連事務総長の科学諮問委員会のメンバーであり、25 以上の著書がある。南アフリカ最高の栄誉であるマブングブエ勲章や、南アフリカ科学アカデミーの「社会のための科学」金メダルを受賞。



MUSIC

Wac-Lounge

和久英明によるソロプロジェクト。エレクトロユニット eureka! 名義で国内やドイツのレーベルから CD やアナログなどリリース。フランクフルトのフィルムフェスやベルリンなど 3 都市を回るツアーに出演。また BALLY などのブランドやコンピレーションに多数楽曲提供している。2023 年にはロンドン NTS ラジオで 1 時間の Wac-Lounge ミックスを披露。コロナ以降、モジュラーシンセやテープレコーダーをモチーフにした音楽及び映像作品をインスタグラムにて発信中。

The Voice Message from Tshilidzi Marwala

I have sought to understand how we can harness technology to build a better future. Today our world is at a crossroads.

Climate change, biodiversity loss, and resource depletion are not distant concerns; they are immediate crises, destabilizing the very systems that sustain life. Addressing these challenges requires bold collective action across the world, transcending disciplines, borders, and generations.

The Pact for the Future adopted by UN member states in September 2024 is a groundbreaking step towards strengthening multilateral cooperation. Along with it, the Declaration on the Future Generations represents an unprecedented commitment and recognition that the policies that we enact today will shape the lives of those yet to be born. For the first time, world leaders have united towards a long-term vision that deliberately safeguards and supports the needs of future generations.

While I have spent much of my career focused on artificial intelligence, I firmly believe that addressing planetary crises is, at its core, a human challenge. Technology can and must support us, but it is your engagement, your ideas, and your local knowledge that will drive meaningful transformation. By taking part in this initiative, you are already playing a crucial role in shaping the future.

The next generations of leaders will not wait for others to act; they will lead. The Pact for the Future is a pledge for world leaders to listen to youths, to involve youths in decision making, and to work together with youths to build a more just and sustainable future. Planetary Boundaries are not about the limits to growth but about growth within the limits.

I commend you for your dedication and encourage you to keep innovating, collaborating, and leading the way towards a future of sustainable growth within the limits of our shared planet. That future is not only possible but essential.

私は、これまで、どうすれば技術を活用してよりよい未来を築くことができるかを理解しようと努めてきました。

今日、私たちの世界は岐路に立っています。気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇は、遠い未来についての懸念ではなく、生命を支えるシステムそのものを不安定にする差し迫る危機です。これらの課題に対処するには、研究分野、国境、そして世代を超えた大胆な集合的行動が必要です。

2024年9月に国連加盟国によって採択された「未来のための協定」は、多国間協力を強化するための画期的な一歩です。その一部である「将来世代に関する宣言」は、今日制定される政策がまだこの世に生を受けていない人々の生活を形作ることへの前例のないコミットメントと認識を表しています。世界の指導者たちは、はじめて将来世代のニーズを意図的に保護し、支援する長期的なビジョンに向けて団結したのです。

私はキャリアの大半を人工知能と関わりながら過ごしてきましたが、地球規模の危機に対処することは本質的に人間じたいの挑戦であると強く信じています。技術は私たちを支援することができますし、そうであるべきですが、意味のある変革を推進するのは、あなたの関与、あなたのアイデア、そしてあなたのローカル・ナレッジ（地域独自の知識）なのです。この取り組みに参加することで、皆さんはすでに未来を形つくる重要な役割を果たしているのです。

次の世代をになう指導者たちは、他の人々が行動するのを待たず、自ら率先するでしょう。「未来のための協定」は、世界の指導者たちが若者の声に耳を傾け、意思決定に若者を関与させ、若者と協力してより公正で持続可能な未来を築くための誓約です。

プラネタリー・バウンダリーズは成長の限界（limits to growth）ではなく、限界の内側での成長（growth within the limits）を示しています。

私は、青年の皆さんの献身に感謝しつつ、皆さんが革新し、協力し続け、私たちの共有する地球の限界内で持続可能な成長の未来に向けて道を切り開くことを期待しています。その未来は可能であるだけでなく、不可欠なのです。

Wac-Lounge Patch notes

2-1
Field recordings = Zoom H6 & SSH-6(capsule)
Echoed random granular voices = Hector(Plaits clone) processed by Beads & Hector (Delay) sequenced by Hector(Marbles clone) clocked by Steppy
Echoed rhythmic voices = Hector(Plaits clone) processed by Hector(Delay) sequenced by Hector(Marbles clone) enveloped by Hector(ADSR)
Synth lead voice = Ensemble Oscillator modulation & sequenced by Flame C-3mk2
Reverse E.piano voice = Disting triggered by Steppy
Master clock = Hector(LFO)

2-2
Echoed bell voice = Rings processed by Mimeophon(clocked by Steppy) sequenced by Mob of Emus CH3
Granular ambient voice = Mob of Emus CH2 processed by Beads & Disting(Tape delay) sequenced by Mob of Emus CH4 slew limiter A-184-1
Echoed arpeggio voice = Mob of Emus CH1 processed by Hector(Delay) sequenced by Flame Chord Machine clock & program changed by Steppy enveloped by MATHS
Synth lead voice 1 = Hector(Plaits clone) processed by Hector(Delay) sequenced by Hector(Note sequencer triggered by Steppy)
Synth lead voice 2 = Hector(Plaits clone) sequenced by Hector(Note sequencer triggered by Steppy) modulation & enveloped by Hector(ADSR)
Synth lead voice 3 = Ensemble Oscillator modulation from Mob of Emus CH6 & MATHS sequenced by Flame C-3mk2
Piano loop voice = Volca Sample

2-3
Brass-like voice = Ensemble Oscillator with modulation from A-145-4LFOs & MATHS sequenced by 2hp Arp clock controlled by Grids & Steppy
Strings-like voice = Rings enveloped by Tides sequenced by Voltage block(CV) & Grids (Gate)
Sine wave drone = Plaits-1 with modulation from MATHS & A-145-4LFOs Filtered by Model-D
Bass drone = Plaits-2 with modulation from MATHS
Reverse loop = VHS video tape
Master clock = A-145-4LFOs

2-4
Wavetable voice = Plaits with modulation from A-118noise, A-145-4LFOs & MATHS sequenced by 2hp Arp
Stereo Triangle voice = Tides sequenced by A-145-4LFO(CV) & MATHS(Gate) enveloped by A-140ADSR
Polyphonic pad = Ensemble Oscillator sequenced by A-145-4LFO(MATHS Attenuated)
Lo-Fi piano voice = Volca Sample
Reverse loop = VHS tape
Master clock = A-145-4LFOs

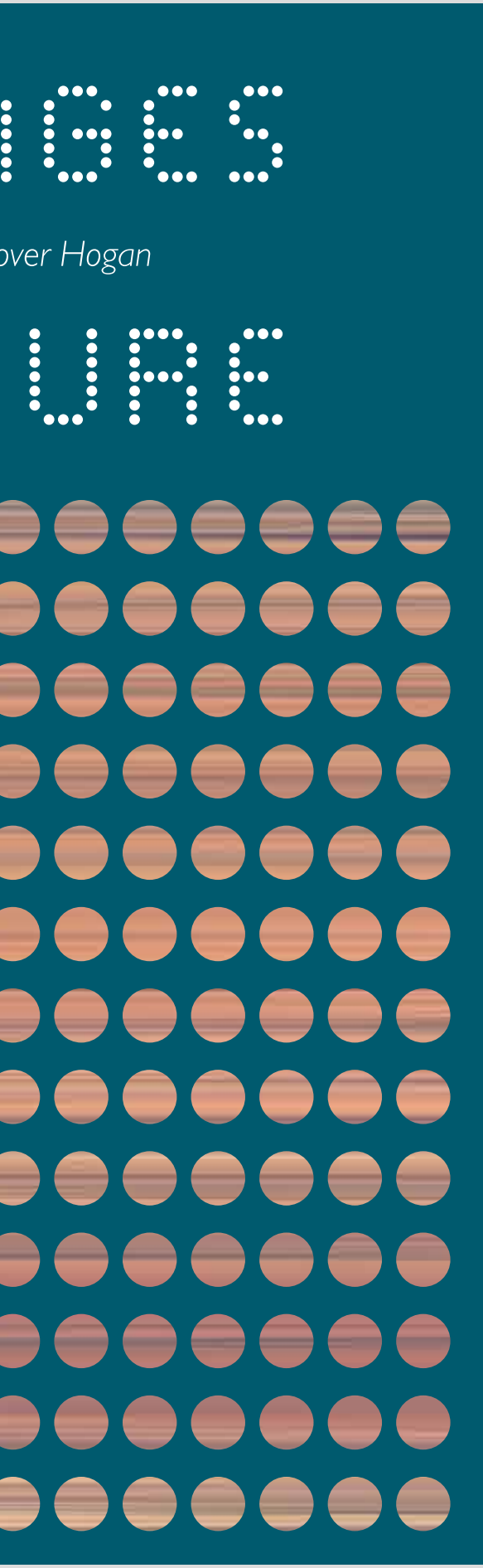
DISC 03

Michael Louis
& Clover Hogan

- 3-1 There Comes A Time (04:29)
- 3-2 Hope 100 (05:52)
- 3-3 Slept-in / Part One (16:24)
with the voice message by Clover Hogan

再生はこちら ▶





Michael Louis のサウンド・ジャーニーは、心から満ち足りた感覚を呼び起こすような、人生への省察にはじまります。街路や公園での湧き出るような喜びを感じて歩くと、やがて風に揺れる暗い森の中にいることに気がつきます。夢の中のような郷愁に満ちたこの場所で、あなたは再び自分を見出し、希望を取り戻すことができるかもしれません。

気候活動家の Clover Hogan のヴォイス・メッセージは、世界の気候対策の停滞や政治的反動に対する率直な感想を伝えています。しかし、彼女は、Rebecca Solnit が記したように、歴史の中の女性たちの闘争や、これから生まれてくる人々のことを想起することが、自らの行動への決意をもたらすことを語ります。



voice

Clover Hogan

クローヴァー・ホーガンは、気候活動家であり、気候不安を行動に変える若者の非営利団体「フォース・オブ・ネイチャー」(Force of Nature) の創設者でエグゼクティブディレクターである。彼女は、世界の持続可能性に関する権威とともに活動し、Fortune 50 企業の取締役会でコンサルティングを行い、国家元首たちに助言を行ってきた。ジェーン・グドールやヴァンダナ・シヴァなどの世界的な変革者とともに登壇し、第14代ダライ・ラマにインタビューを行った。彼女のTEDトーク「気候変動が止められないと感じたときに何をすべきか」は、これまでに200万回視聴されている。



music

Michael Louis

アメリカ・カリフォルニア州オークランド生まれのプロデューサー、ミュージシャン、教育者。彼はGoapele の” Closer” のプロデューサーであり、Lalah Hathaway のキーボード奏者で、彼女がグラミー賞を受賞したライブ音源にも参加している。このほか、Derrick Hodge の” Color of Noize” や Ambrose Akinmusire の” Origami Harvest” (Blue Note Records) でも共演。彼が立ち上げた Tiger’ s Eye Music レーベルでは、デビュー・アルバム” Slept On” と最近のリリース盤” Shapes & Shades” が Bandcamp でアクセス可能になっている。現在は、カリフォルニア州のベイエリアに妻と娘とともに暮らしている。

The Voice Message from Clover Hogan

I know many of us have been feeling overwhelmed. Frankly, I think it's hard not to, with the constant barrage of depressing headlines and with the doom scrolling.

Whenever I'm feeling anxious and unsettled about the future, I find it really helpful to actually look to the past. To think about the movements of people that have come before us and how they fought for many of the rights and freedoms that we perhaps take for granted today. I think about the suffragettes, the civil rights movement, anti-apartheid, queer liberation, the Stonewall uprising, and I think about the figureheads in these movements.

Emmeline Pankhurst, the suffragette. In her lifetime, it wasn't just that women were not allowed to vote in the UK, but most forms of rape were still legal. Rosa Parks. She was arrested and convicted for refusing to give up her seat on the bus to a white man. Or Marsha P Johnson, an eminent figure from the Stonewall uprising. In her lifetime, it was illegal to be gay, and it was illegal to be trans.

When I think of these activists — some whose names we know and many whose names we don't — , I'm reminded of just how much courage they had in the face of tremendous opposition. They teach us that change didn't come from the corridors of power. Yes, it was ratified by judges, by lawmakers, but change it came from the margins. It came from people who had been failed by the system. People who were disillusioned, who were angry, who were passionate and determined to create a better world, and to stand up in the face of injustice. Not when it was easy, but especially when it was hard.

These movements of people teach us that change is not inevitable. It is fought for and won. But also that change and progress is not always linear. And that is really what we're seeing now. You know, we're seeing a reversal in progress. And that is why it is more important than ever that we band together. And not when it's easy, but when it feels overwhelming.

And sometimes I find it comforting to think of myself not just in the context of my own, frankly, short lifespan, but in the context of this legacy. Because we inherit a legacy of activism from previous generations. And I take action today as a climate activist not just for the people that I love and the places that I love today, but for future generations because I want generations that are growing up today or even generations not yet born to be able to look back on their ancestors, just as we look back on people-powered movements of the 1900s. I want them to look back on the people today and know that we did everything in our power.

And not because we knew we would win... Frankly, we don't know... Or because we thought my drop is going be the drop in the bucket to tip it over. But for no greater reason, because we knew it was the right thing to do.

いま、多くの方が何かに圧倒されていると感じていらっしゃると思います。正直なところ、そう感じるのも無理はないことだと思います。気持ちの落ち込むようなニュースが砲撃のように絶え間なく飛び込んできて、それをずっとスクロールして見つめ続けているのですから。

未来に対して不安になったり、落ち着かない気持ちになるとき、私は過去を振り返ってみることがとても役に立つと感じます。私たちが今日、当然のように享受している多くの権利や自由のために戦った、歴史の中の人々の運動を思い出すのです。女性参政権運動、公民権運動、反アパルトヘイト運動、クィア解放運動、ストーンウォールの反乱などのことを思い起こし、そして、これらの運動の指導者たちを思い浮かべます。

たとえば、エメリン・パンクハースト。彼女は女性参政権運動のリーダーでした。彼女が生きていた時代、イギリスでは女性が投票することが許されていなかっただけでなく、ほとんどの形態のレイプが合法でした。ローザ・パークス。彼女はバスの席を白人男性に譲ることを拒否したために逮捕され、有罪判決を受けました。そして、マーシャ・P・ジョンソン。彼女はストーンウォールの反乱の著名な人物した。彼女が生きていたころ、ゲイであることは違法であり、トランスジェンダーであることも違法でした。

これらの活動家たちを思い浮かべるとき——私たちが知っている名前もあり、知らない名前も多くありますが——、私は彼女たちが巨大な反対勢力に直面しながらも発揮した大きな勇氣に思いをはせます。

彼女たちは、変化が権力の中枢から生まれたのではないことを教えてください。たしかに、変革はのちに裁判官や政治家によって承認されましたが、大切な変化は周縁から生まれました。システムに裏切られた人々から生まれたのです。失望し、怒りを抱くとともに、よりよい世界を創り出すことに情熱と決意をもった人々から生まれました。彼女たちは不正に向き合い、立ち上がったのです。そうすることが容易だったときではなく、困難なときだったときにこそ、そうしたのです。

これらの民衆運動は、変革はどこからかやってくるものではなく、人々の戦いによって勝ち取られるものであることを教えてください。しかし、変革と進歩が、必ずしも直線的に進むものではないことも伝えています。そして、まさに今、私たちが目にはしているのは進歩の逆行です。だからこそ、私たちが団結することがこれまで以上に重要なのです。そして、それが簡単なときではなく、圧倒されると感じるときにこそ、そうすることが大切です。

ときどき、私は自分自身のあり方を、単に自分の短い寿命の文脈だけでなく、こうした遺産（legacy）の文脈で考えなおしてみることに慰めを見出します。私たちは過去の世代の運動の遺産を受け継いでいるからです。そして、私は今日、気候活動家として行動を起こします。それは、現在、私が愛する人々や場所のためだけでなく、未来の世代のためです。なぜなら、今日、子どもとして成長している世代や、いまだ生まれていない世代が、彼らの祖先である私たちを振り返ることができるようにしたいのです。ちょうど私たちが1900年代の民衆の運動を振り返るように。私は彼らが今日の人々を振り返り、私たちが力の限りを尽くしたことを知ってほしいのです。

そして、それは私たちが勝利すると知っていたからではなく——正直に言って、それはわからないことです——、私がバケツをひっくり返すような一滴の水になれると大それたことを思ったからでなく、ただそれが正しいことだと知っていたからだ、と。

Michael Louis There Comes A Time

There comes a time
When you want to be older
There comes a time
When you want to be bolder
I love you more
When it's over
I love you more
There comes a time when you're helpful
There comes a time when you're doubtful
I love your life more when you're spiteful
I love you more
There comes a time to wake up to what's happening
There comes a time to get out of what's happening
I love you more than what's happening
I love you more
There comes a time when you're near me
There comes a time when you're near me
A time that captures what we're after
A time
A time
A time
A time
A time



ヴォイス・メッセージ

Roman Krznaric, Tshilidzi Marwala, Clover Hogan

音楽

Benyamin Nuss, Wac-Lounge, Michael Louis

サウンド・エンジニアリング

二上大志郎 (kusuguru), 佐藤宏平 (Yuinchu)

デジタル・ブックレット

玉川克人

制作支援

大鰐亮 (日立ドキュメント・ソリューションズ)

協力

国際連合大学, River Studios Cologne, Ralf Kemper

コンセプト・総合ディレクション

佐々木剛二 (日立製作所)

©Hitachi. 2025. All rights reserved. Unauthorized copying or duplication is strictly prohibited.

HITACHI

